

認定NPO法人アンケート

法人名: さいたまチャイルドライン

担当者名: 小林千佳子

Q1 現在活動している主な事業について教えてください。

- ・18歳までの「子ども電話(電話・チャット)」の開設事業
 - ・会の事業に携わるスタッフの研修事業
 - ・子どもたちの環境整備のため、大人の学習の機会提供事業
 - ・「子ども電話」が受け止めた子どもたちの声を社会化し、子どもたちに関する諸政策に反映させるための政策提言
 - ・その他、子どもたちが生き生きと暮らせる社会づくりを目的とする諸々の活動とネットワークづくり
- ※詳細は当法人のホームページをご覧ください。活動の性質上、非公開の部分があります事をご理解ください。

Q2 認定を取得しようと思った理由を教えてください。

- ・社会的信頼の向上
- ・寄付控除

Q3 認定取得までに苦労された点をお聞かせください。

事務局の人手が少ない中、書類づくりが大変です。

また、相対基準での申請における計算方法を理解するのに時間がかかりました。

認定の初年度は、担当者が「わからないことは教えもらおう」と埼玉県庁まで行き、共助社会づくり課の方に説明を聞き、作成したもののチェックを相互に繰り返し、やっと提出したそうです。2023年の更新でも、メールと電話のやりとりを複数回して提出しました。

さらに、現地調査でも不備が見つかって修正をします。

事務作業は膨大ですが、毎回、NPO 認証担当の方に「こういう活動をしている団体こそ、認定をとってほしいと思います」という言葉をいただくのは嬉しく思います。

Q4 認定を取得されたことで法人の運営や活動に何か変化はありましたか。

「認定 NPO 法人です」と名乗ることができることの心理的な余裕ができたこと。

寄付に対しては実際には期待ほどの効果はないようです。もともと寄付してくださる方は、活動そのものに賛同をいただけるからであって、税金が問題とはしていないからだろうと考えています。それでも、「頂いた寄付金は確定申告していただく控除対象になります」と言えるのは、寄付をお願いする側として気持ちが楽になります。

Q5 多くの方からご支援をいただくためにどんな工夫をされていますか。

「人から人へのお願い」で、賛助会員を増やしていこうとしていますが、厳しい状況です。寄付を集める色々なサービスを探して試行錯誤しているところです。

新しく支援者になってくれる人をどう見つけていくか課題です。

Q6 これから認定等の取得を目指す NPO 法人へのアドバイスをお願いします。

わからないことは、共助社会づくり課の担当の方に電話やメールで聞くことができます。

また認定更新完了後は、ポイントになる部分をマニュアルとしてまとめて保管しておく（5年後）かなり楽になると思います。

（記入日：令和6年 2月28日）